

「どしゃさいがいのじゅんぴ」

まんのう町立仲南小学校 1年 山内 麻未 さん

わたしが、「どしゃさいがい」をしたのは、「どしゃさいがいのさばいばる」というほんをよんだからです。そのほんをよんでがけがくずれて、いえがながされたりしてたいへんそうだとおもいました。たいせつないえがながされるのは、つらいです。たくさんひとがしぬのはこわいです。

わたしのしょうがっこうのつうがくろでも、たくさんあめがふったときに、じすべりがおきたとかぞくからききました。じすべりがおきたあとすぐに、しょべるかーがきてこうじをしたそうです。そのあとはおこっていません。

でもそこはつちがみえていて、またあめがたくさんふったらくずれそうでこわいです。

つぎのおおあめがおこったときは、へるめつとをかぶって、あんぜんなばしょにひなんしようとおもいました。あんぜんなばしょは、しょうがっこうのたいいくかんです。わたしのいえにはへるめつとがないので、かいにいきます。じすべりしたばしょは、しょうがっこうのつうがくろなので、はやめにひなんします。

わたしのおとうさんは、さいがいがおこるまえにしごとについていなくなります。だから、わたしがかぞくに「ひなんしよう。」といおうとおもいます。はやくひなんするためにひなんばっくをつくっておきます。ひなんばっくは、いつもなかをみてくさっていたらかいかえします。ふくそうはなつでも、ながそでながずぼんにきがえて、ながぐつをはくのでじゅんぴしておきます。

わたしのすんでいるまちのちゅうなんは、やまがおおいので「どしゃさいがい」がおこりやすいばしょだとおもいます。みんながじゅんぴをしてはやくひなんができれば、いいなとおもいます。